

## 「平成24年、加藤・水谷・篠崎研究室忘年会がやってきました！」

やっと涼しさが戻ってきました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

京都大学 山中伸弥教授のノーベル医学・生理学賞の受賞は論文発表から6年、でもその切っ掛けは50年前の1962年のイギリスの学者のマウスの初期化の成果。山中先生の研究進め方はものづくりですね。父親がものづくりだった。ちいさい時の経験や環境はあとまで応援します。

今年の夏は例年になく酷暑になり、熱中症の人が激増。台風17号が日本を串刺しに通過して9月一杯まで続いた暑さも何とかおさまりました。今後も台風の核となりそうな雲の塊がフィリピン海域で次々と発生している様子。海水温が高いので、台風は核成長のエネルギーを十分に得ることができるようです。台風自体は反時計回りにまわって核成長をしても円盤の径方向は大きくなるだけですが、地球の自転や偏西風などの流れに乗って日本付近で弧を描くようにやってくるようです。

東工大は10月から伊賀学長に代わって、総理工の三島先生が学長に就任されて、新しい体制で出陣というところです。金属の丸山先生が工学系長をされていますが、今度、副学長として大学運営に活躍される事になりました。5月にホームカミングデーが窯業同窓会のあと、体育館に移動して学科ごとの塊ができて、飲食しながら歓談で過ごしました。10月6日、7日は恒例の工大祭で、また恒例の七宝焼きが人気を博しておりました。昨年お在庫まで売切れてしまったとか。篠崎先生は研究室で薄膜やエネルギーの研究の成果を展示。大盛況。

大岡山キャンパスの正門を入った左手の図書館は解体されました。新しい図書館は本館正面の桜並木が終わったあたり、以前にはロータリーがあったところに、空から見るとチーズケーキのような鋭角の三角形をした建物で、昨年から開館しています。東急大井町線で大岡山から緑ヶ丘に行く途中の右側、昔の自動車部練習場の跡にソーラーパネルをよりのようにまとったこれも三角で緩い弧を描いた建物が見えます。これは大学肝いりで作った新エネルギー研究棟だそうです。すずかけ台も高層のツインタワービルが完成し、高層階からはかなり遠くまで遠望できそうです。

やはり、心を痛めるのは、電気メーカーなどのリストラや業態縮小などです。また、60歳を待たずして、早期退職されるなど、就職時のあの勢いは何処に行ったのかと思います。担当部署もドンドン変わって行くし、いつの間にか他社の系列に入っている。中には今まで、コンペティターの企業に移られることもあるようで、大学の苦しさの比ではないような、非常にご苦労されておられる方も多いかと思っております。折角持っておられる、アイデア、知恵や経験が活かしきれていないのはさぞかし辛いと思います。

最近では大学でも「汎用コンピテンシー」の重要さが言われております。職場や企業が変わっても、活躍できるような人間力でしょうか、才能ですね。これは、入社してから先輩や同僚社員から体験的に吸収するようなものかと思っておりましたが、今は、在学中に学習す

るようです。一方では大学生の数学力の低さや大学外での自習時間の短さなどが取り上げられ、文科省が大学再生プランを主導しようとしています。教育、医学、工学の分野は今年度から取り掛かると言うことです。いじめや生徒の自殺など、暗いニュースが多いこの頃です。10月には文部科学大臣も交代されました。これから年末に掛けては海外でも指導者の継続や交代など予定されています。国内外の動きをウオッチしながら、まずはしっかり足元を固めて、気持ちを楽に持つことでしょうか。

9月に総合理工学研究科の舟窪浩先生が同じ分野の教授に昇進されました。大岡山に篠崎教授、すずかけ台に舟窪教授という両輪になって、材料開発に腕を振るってもらえればと思います。櫻井修先生もご活躍です。東海大学の仲間も元気に活躍されておられるようです。

加藤先生は昨年、体調を心配されて、忘年会は欠席されましたが、体調も回復しておられ、また再び元気なお姿を見せていただければと願っております。

大学も10月から後期に入ると、受験生獲得のキャンペーンや、各種入試、さらに卒研や修論などが次、次と降りかかってくる業務のほかに、秋の学会シーズンもあって、大変お忙しいようです。

9月に京都で分析器メーカーである堀場製作所の創業者（80歳を優に越えておられる）のご講演を伺いました。京大理学部で卒研で放射線測定器の研究をしているときに、終戦になり、自宅に持ち帰って研究を続けられた。この様なことが分析器機製作のベンチャーを起す事になったとのこと。後に、医学博士をとる際には、研究論文だけでなく、医学に関する知識も持ち合わせる事が条件になり、医学部の講義をお聴きになった思い出も話されました。昔骨折したときにはギブスで固定を長くしていたが、最近は直ぐにうごけという。変わります。日本は悲観主義的発言が高貴だと思われている節があるが、もっと、楽観主義にならなければ駄目だといっておられました。社是を「たのしく おもしろく」にするのに、幹部社員の同意を得るのに随分長くかかったとか。

先日、新聞に三鷹市にある「三鷹光機」の中村社長の話が載っていました。この会社は集光機や凹面鏡など、世界的な技術を持つオンリーワン企業で「町工場の巨人」と言われ、従業員は50名程度です。新聞には太陽光を集めて熔融塩を400度に加熱。蓄熱し、それでタービンを回し発電するような内容でした。NEDOの支援を受けて進めておられます。中村社長には八王子の高専にいるとき、一度講演をお願いしました。色々なデモ機器を持ってこられました。中小企業の社長はいつもアイデアと夢を持ってそれを製品に実現していくことを次々とする必要があると言う内容だった。この会社の採用試験は学歴不問で絵（確か自画像？）を書かせたり、工作させたりするのだと聞いたことがあります。ものづくり企業の社長はアイデアを豊富に持って、その実現の夢を追いかけていくことが望まれるのでしょうか。そういえば、イギリスの掃除機のバイソン社の創業のジェームス・バイソンが「新製品を出すことの喜び」を日本は忘れていないのではないかと考えていたのを思い出した。日本の企業の開業率が2%、廃業が6.3%です。18から64歳で、ベンチャーを起す

割合が日本は 5.2%、米国 12.3%、オランダ 8.2%、英国 7.3% などです。先日、NHK の 9 時のニュースを見ていたら、ドイツの有名な投資家が日本に拠点を作って、日本は投資の相手として魅力がある。「陽はまた昇る」だといっていました。その魅力は日本のベンチャーだということです。今、日本が苦勞している大企業も戦前戦後にベンチャーとして立ち上がった。これらはハードで頑張って世界的企業になった。これからは I T とソフトが融合したような分野が成長するだろうと言っていました。そして大企業での技術者も「今がチャンス」、是非、身近なところから「ベンチャーを立ち上げてほしい」と言うような内容でした。そういえば、昔、NHK の番組だった「プロジェクト X」で、毎日の仕事が終わったあと、気の合う仲間が集まってこっそりと製品開発をする「やみ研」？から新たなユニークな製品が出てきたように記憶しています。

今回の忘年会は昨年と同じホテルで篠崎先生、舟窪先生のご苦勞で開かれます。I T が發達した昨今では。ソーシャルネットサービスによって非常に便利になりましたが、逆に、直接、顔を合わせる機会が少なくなったというか、貴重のように思います。お会いして、特段前から思っていた、お話しがあるわけでもありませんが、お会いすれば、其処に新たな雰囲気生まれ、自然と話題が沸いてきます。色々な方と話していると、そのうちのいくつかの話題が共通だったり、繋がっていたりします。本当に妙味です。是非とも、おしゃべりを愉しみましょう。

皆さんのお出でを楽しみにしております。(2012. 10. 7、水谷)

追伸：昨年の忘年会では、出欠の返信メールに近況を知らせてくださった仲間もおられました。皆さんに知らせてよいものか判断に困りましたが、今回は「近況をまとめ」で皆さんに連絡できるようにしたいと幹事の方々は考えられておられます。そのようなことを念頭に何でも記入していただけると互いの顔がみえてくるのではないのでしょうか。